

令和 6 年 度

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

－教育目標－

心豊かで たくましく 郷土を愛し

その発展に尽くす市民を育む教育を進める

令和 7 年 9 月

鹿角市教育委員会

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

目 次

I 学校教育の重点目標と事務・事業 ≪担当課 総務学事課≫

(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実

①	児童生徒学力向上対策事業	P 1
②	課題研究活性化事業	P 1
③	読書活動の推進	P 1
④	ふるさと・キャリア教育推進事業	P 2
⑤	特色ある学校づくり推進事業	P 2
⑥	ふるさとかつの絆プラン事業	P 2
⑦	夢の教室開催事業	P 2
⑧	I C T活用教育事業	P 3
⑨	外国語活動充実事業	P 3

(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実

①	hyper-QU検査	P 4
②	給食による食育の推進	P 4
③	中学校部活動の地域移行の推進	P 4
④	5歳児すくすく健康相談	P 5
⑤	特別支援教育支援員配置事業	P 5
⑥	かつのこもれび教室運営事業	P 5
⑦	かつのこもれび相談事業	P 5
⑧	奨学資金貸付事業	P 5

(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現

①	校用備品（机椅子）の更新	P 6
②	通学対策事業	P 6
③	獣害・感染症対策	P 6
④	鹿角市学校多忙化防止計画の推進	P 7
⑤	鹿角市初任者研修の充実	P 7
⑥	コミュニティ・スクールの推進	P 7
⑦	特色ある学校づくり推進事業【再掲】	P 7
⑧	ふるさとかつの絆プラン事業【再掲】	P 7

Ⅱ 生涯学習推進の重点目標と事務・事業 ≪担当課 生涯学習課≫

(1) 生涯学習推進体制の充実

①-1 地域学校協働活動推進事業	P 8
①-2 成年教育講座	P 8
①-3 花いっぱい運動への参加	P 8
①-4 鹿角の未来創造わげもの塾	P 8
①-5 二十歳のつどい	P 8
①-6 文化財保存活用地域計画策定事業	P 8
②-1 SNSアカウント 4サイト	P 9
②-2 オンライン研修会等	P 9
③ 施設間連携事業	P 9
④-1 読書活動の推進	P 9
④-2 図書館の整備	P 9

(2) 地域を担う人材の育成

①-1 「どごさデモ」出前講座の開催	P10
①-2 かつの人財発掘事業「情報発信講座」の開催	P10
①-3 「鹿角の未来創造わげもの塾」の開催【再掲】	P10
①-4 市民センター新規サークル登録	P10
②-1 花いっぱい運動【再掲】	P10
②-2 高校生ボランティアの活動支援	P10
②-3 地域学校協働活動推進事業【後掲】	P10

(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援

① 地域学校協働活動推進事業【再掲】	P11
② 家庭教育推進事業	P11
③ 青少年健全育成事業	P11

(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援

①-1 「二十歳のつどい」の開催【再掲】	P12
①-2 市民センターにおける同世代（青少年）教育関連事業	P12
①-3 市民センターにおける世代間交流関連事業	P12
①-4 高齢者の活動支援	P12
②-1 生涯学習奨励員活動【後掲】	P12
②-2 十和田図書館・史談会連携講座	P12
②-3 歴史民俗資料館主催講座	P12
②-4 先人顕彰館主催講座	P12
②-5 地域学校協働活動推進事業【再掲】	P12
③-1 生涯学習奨励員活動【再掲】	P13
③-2 「鹿角の未来創造わげもの塾」の開催【再掲】	P13
③-3 ふるさと・キャリア教育推進事業【再掲】	P13

(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現

① 「比内支援学校かつの校」の学習活動支援	P14
②-1 パラスポーツ・ユニバーサルスポーツ体験	P14
②-2 社会教育施設での啓発活動	P14
③ 日本語講座開設事業	P14

Ⅲ スポーツ推進の重点目標 《担当課 スポーツ振興課》

(1) 生涯スポーツの普及推進

- ① チャレンジデーの開催 P15
- ② タートルマラソンの開催 P15
- ③ 総合型地域スポーツクラブの育成 P15

(2) スポーツによるまちづくりの推進

- ① スポーツ拠点づくり推進事業 P16
- ② 「スキーのまち」の推進 P16
- ③ 「駅伝のまち」の推進 P16
- ④ はばたけアスリート鹿角コーチング事業 P16
- ⑤ スキー駅伝選手育成強化対策事業 P16

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

- ① 市民スポーツ活動を支える団体との連携拡充 P17
- ② 指導者の育成と活用 P17

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

- ① スポーツ施設の利用促進 P18
- ② スポーツ施設の整備・充実 P18

IV 文化芸術振興の重点目標 《担当課 生涯学習課》

(1) 文化芸術活動の振興

- ① 文化の杜交流館事業 P19
- ②-1 文化芸術振興事業 P19
- ②-2 市民センター「文化祭」 P19

(2) 文化財の保存と活用

- ①-1 文化財保存事業 P20
- ①-2 無形民俗文化財担い手育成事業 P20
- ①-3 声良鶏保存奨励事業 P20
- ①-4 花輪祭の屋台行事保存修理事業 P20
- ①-5 文化財保存活用地域計画策定事業【再掲】 P20
- ②-1 歴史民俗資料館の運営 P21
- ②-2 先人顕彰館の運営 P21
- ②-3 鹿角市民俗芸能フェスティバルの開催 P21

(3) 世界遺産の活用推進

- ① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携 P22
- ② 大湯環状列石環境整備事業 P22
- ③-1 普及啓発・情報発信 P22
- ③-2 学習機会の提供 P22
- ③-3 ユネスコ登録文化遺産の観光活用 P22～23

教育委員会事務事業点検評価 <概要> P24～28

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規程により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I 学校教育の基本方針と重点目標

1 基本方針	社会の中でたくましく生き抜く心と体をもつ、志の高い子どもを育み、一人一人の個性や能力を伸ばすことのできる学校教育の充実を図る。
2 重点目標	(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実 ①自己実現のために必要な確かな学力の定着 ②ふるさとを支える気概を持った人材の育成 ③情報活用能力とコミュニケーション能力の育成
3 成果指標	標準学力調査における全国平均正答率との比較 (小学 4～6 年生) (前年) 99% (実績) 102% (R7 目標) 103% 標準学力調査における全国平均正答率との比較 (中学 1～2 年生) (前年) 102% (実績) 104% (R7 目標) 103%
事務・事業の内容	成果・課題等
①児童生徒学力向上対策事業 標準学力調査 小学校 4～6 年生 544 人 中学校 1～2 年生 390 人 hyper-QU 検査 小学校 4～6 年生 延べ 1,110 人 (年 2 回) 中学校 1～2 年生 延べ 812 人	標準学力調査では、各校で結果の分析や活用が行われており、全国平均正答率との比較では、ほとんどの学年で本市の平均が全国平均を上回った。hyper-QU 検査では、教育センターにおいて分析や活用方法の研修会を実施し、各校において児童・生徒の学力と学級の状態を関連させた分析を行い、学級集団の状態を把握して学級経営や授業の展開に生かすことができた。
②課題研究活性化事業 研修会開催 2 校 1 団体 69 人参加 ・花輪小：「不登校児童生徒とその保護者への相談・指導・支援の実際」 開善塾教育相談研究所 所長 藤崎 育子 氏 ・尾去沢小：「新しい防災教育について～住民参加型の防災と避難所運営について～」 日本赤十字秋田短期大学 看護福祉学科講師 及川 真一 氏 ・鹿角校長会：「学校防災のための災害の基礎知識～秋田県の災害事例から学ぶ」 秋田大学防災減災総合研究センター 教授 水田 敏彦 氏	小中学校の教職員を対象として、不登校児童生徒に関する現状の把握、防災教育や災害の基礎知識について、2 校 1 団体で講師を招へいした研修会を実施した。それぞれ第一線で活躍されている講師による貴重な講演であり、参加者は理解を深めることができた。 花輪小では、不登校の背景や要因のほか、講師の対応経験から児童生徒や保護者との関係性構築について指導助言を受けた。また、尾去沢小では、学校としてできる防災教育について、事例を交えながら様々な角度と視点から学ぶことができた。
③読書活動の推進 図書館との連携事業 (図書館見学・職場体験の受入れ、夏休み読書セット貸出や移動図書館の学校訪問、ブックリストの配布と本紹介 等)	朝読書や読書集会、ビブリオバトルなどの学校ごとの取組みや、図書館との連携等により、読解力や想像力、思考力、表現力を育む読書活動の推進を図ることができた。

④ふるさと・キャリア教育推進事業 ふるさと・キャリア教育コーディネーター配置 1 人 夢探究プロジェクト（夢たん）の受入登録事業所数 180 事業所 職場見学 受入事業所 延べ 35 事業所、参加児童数延べ 934 人 職場体験（個人「夢たん」含む） 受入事業所 延べ 107 事業所、参加生徒数延べ 236 人 職業講話 協力事業所 延べ 12 事業所、参加者数延べ 121 人 「夢たん通信」 年 21 回発行	ふるさと・キャリア教育コーディネーターが学校と事業所をつなぎ、市内の全小中学校において職場見学や職場体験を実施したほか、職業講話として各校に講師を派遣した。児童生徒に市内の様々な仕事を知ってもらうとともに、企業や地域で働く方との関わりを通して望ましい勤労観や職業観を育むことにつながっている。 また、「夢たん通信」を発行し、各校のキャリア教育の取組みを紹介することができた。
⑤特色ある学校づくり推進事業 地域の特色を生かした体験学習等の実施 小学校 6 校すべてで実施 キャリアアップ講座等の講演会の実施 中学校 4 校すべてで実施	すべての小中学校において地域の特色を生かしたカリキュラムをつくり、地域の方々からの協力を得ながら、伝統文化、芸能、農業、観光ガイドなど、地域に根差したキャリア教育の充実を図ることができた。当日の体験学習のほか、事後の学習として、学んだことをまとめて地域等で発表することで、表現力の向上につなげることができた。
⑥ふるさとかつの絆プラン事業 小学校 6 校すべて実施 開催総数 12 回 中学校 4 校すべて実施 開催総数 4 回	各校で行っている特色ある教育活動について、小学校同士や中学校同士が連携して、体験フィールドを市内全域に広げて実施した。児童生徒がそれぞれの地域にある農作物の収穫や伝統芸能などを体験したり、観光ガイド等で交流したり、他校の活動と一緒に参加することで、視野を広げ、ふるさと鹿角の良さを知る機会となっているほか、市内の伝統や文化等を探求することにもつながっている。
⑦夢の教室開催事業 小学校 6 校 8 学級（5 年生）	J F A ころのプロジェクト「夢の教室」の開催により、協力して課題を解決することや相手を思いやる気持ち、夢や目標に向かって努力することの大切さなどを児童に伝えることができた。

⑧ I C T活用教育事業 校内通信ネットワークの活用 (小学校 6 校、中学校 4 校) 児童生徒 1 人 1 台端末の活用 計 1,856 台 小学校 児童 1,020 台 指導者 108 台 中学校 生徒 646 台 指導者 82 台 電子黒板配置 80 台 小学校 6 校 47 台 中学校 4 校 33 台 I C T支援員の配置 3 人	小中学校の授業等において学習用端末や電子黒板などの I C T機器が積極的に活用されており、画像・動画等による多角的な視点から得られる情報を駆使して学ぶことができ、児童生徒の学習意欲を高めたり理解力の向上が図られた。 また、I C T支援員の配置により、I C T機器を活用する授業や校務に対するサポートが充実したほか、各校のニーズに応じた研修や他校の活用事例の共有等が行われ、教員の I C Tスキルの向上を図ることができた。
⑨外国語活動充実事業 A L T (外国語指導助手) の配置 3 人 学校訪問 小学校 授業時数 1,645 時間 配置時数 1,304 時間 (配置割合 79%) 中学校 授業時数 3,360 時間 配置時数 846 時間 (配置割合 25%) (週 4 時間のうち 1 時間)	小学校では、A L Tが実際に児童とやりとりをする機会を多く設けることで、児童が英語を学ぶ楽しさを覚え、話す力と聞く力が少しずつ付いてきている。 中学校では、A L Tが授業で使うカードやスライドなどの教材を作成し、生徒が意欲的に取り組めるよう工夫している。また、インタビュー活動の相手を積極的に A L Tが行い、英語のコミュニケーション能力の育成と、生徒の話す力、聞く力の向上につながっている。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	
評価理由： 成果指標は、小学校、中学校とも全国平均を上回る結果となった。 学級経営の検証や教職員研修、I C Tの積極的な活用等により、児童生徒の学習意欲の向上が図られ、主体性をもった質の高い学びにつながっている。 継続して取り組んできている「ふるさと・キャリア教育」を中核とした、地域に根差した特色ある教育活動が展開され、郷土愛の醸成のほか、児童生徒の地域への貢献意欲や自己肯定感の向上が図られている。	

2 重点目標	(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実 ①豊かな心の育成 ②健やかな体の育成 ③一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進	
3 成果指標	市内教職員の研修会等参加率 (前年) 41% (2校1団体3回開催) (実績) 43% (2校1団体3回開催) (R7目標) 25%	
事務・事業の内容		成果・課題等
①hyper-QU 検査 年2回実施 小学校 4～6年生 延べ1,110人 中学校 1～2年生 延べ 812人		hyper-QU を活用した分析研修会を実施し、生徒指導の実践や研修の充実が図られた。児童生徒の学力向上につなげるため、1学期と2学期で2回調査した結果により学級集団の状態や変化を把握し、学級経営や授業の展開に生かすことができた。
②給食による食育の推進 たらふくかづのの日 年5回実施 学校給食センター運営委員会の開催 給食だより 年12回発行		安全安心に配慮した給食の提供に努めたほか、地場産物を多く取り入れたメニューや郷土料理の提供、給食に関する情報を掲載した給食だよりの発行等により、地域の自然や文化などへの理解と郷土愛を深めることができた。 また、物価高騰の影響による給食賄材料費の増額分を市が負担したことで、給食の質の確保のほか、保護者の負担軽減が図られた。
③中学校部活動の地域移行の推進 鹿角市部活動地域移行検討委員会 3回開催 鹿角市部活動地域移行検討委員会スポーツ分科会 2回開催 鹿角市部活動地域移行推進計画の策定 部活動指導員の配置 花輪中学校陸上競技部 1人 十和田中学校バスケットボール部 1人 八幡平中学校バレーボール部 1人 花輪中学校吹奏楽部 1人 部活動地域移行コーディネーターの配置 1人 モデル団体活動実証事業 3団体 各3回		鹿角市部活動地域移行検討委員会及びスポーツ分科会を開催し、地域移行を進めるうえで検討すべき課題について整理し、推進計画を策定した。計画では、令和7年度から12年度までの6年間の学校や地域の実情を踏まえた、目標や期間、取り組む事項の方向性を示した。 中学校部活動指導員を3校に計4人配置したほか、コーディネーターを教育委員会内に配置し、受け皿となりうる団体と学校との協議や「地域移行だより」の発行により生徒や保護者等への理解促進を図った。 モデル団体実証事業では、卓球、ソフトテニス、吹奏楽における休日の活動についての検証を行い、実際の活動によって生じる課題等を整理した。

④ 5 歳児すくすく健康相談 受診者 142 人	すこやか子育て課と連携して、5 歳児及びその保護者を対象に、発達の確認や子育ての相談支援事業を実施することで、発達障害等の早期発見や支援につなげることができた。また、就学に向けての不安や悩みに対する心のケアが図られた。
⑤ 特別支援教育支援員配置事業 小学校 6 校 14 人 中学校 4 校 3 人	通常学級に在籍している発達障害等による特別な支援を要する児童生徒に対して、小学校では主に生活面、中学校では主に学習面の支援を行った。各校では支援員の配置計画を作成し、授業に集中したり、学習内容を理解したりすることができるように、個に応じたきめ細かな支援を実施した。
⑥ かつのこもれび教室運営事業 入級申請 小学生 1 人、中学生 8 人、計 9 人	自閉症傾向や対人不安など、様々な要因で長期欠席及び不登校傾向となった児童生徒の居場所づくりとして、指導員による個別の学習指導や体験活動を行った。児童生徒の引きこもり防止や学校復帰に向けた足がかりとなるよう、児童生徒の相談にのり、心理的な支援も行っている。
⑦ かつのこもれび相談事業 専門員による相談件数：カウンセリング 47 件 心理判定・報告 35 件	不登校傾向等の児童生徒へのカウンセリングや心理検査を実施したほか、学校や保護者、関係機関との情報共有や対応方針の明確化を図り、サポート体制を構築することができた。学校だけでは解決できない複雑な要因が多く、今後も事情を抱えている児童生徒の心に寄り添いながら支援を続ける必要がある。
⑧ 奨学資金貸付事業 実績：令和 6 年度貸付額 12,180,000 円 高専前期（月額 10,000 円） 1 人 高専後期 2 年～大学（月額 30,000 円） 34 人 ※うち 1 人は 9 月で貸付終了	高等教育機関等に進学希望で経済的支援を必要としている生徒や学生に奨学資金を貸し付けすることにより、在学中の経済的負担の軽減を図るとともに、学ぶ意欲のある生徒の進学や技能習得等に寄与することができた。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	
評価理由： 成果指標に掲げている研修会は、2 校 1 団体により実施され、参加率は目標値を上回った。 支援員の配置や各種相談事業のほか、hyper-QU 検査や各校での生活アンケートなどの検証により、課題を抱える児童生徒に対し、多方面からの支援ときめ細かな指導が実践できた。 昨今の物価高騰の影響による給食費増額分の支援により、給食の質の確保が図られ、多様な食品を組み合わせたバランスの良い食事を提供することができたほか、保護者の経済的負担の軽減が図られた。	

2 重点目標	(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現 ①安全・安心・良質な学びの場づくりの推進 ②教職員のモチベーションと資質の向上 ③地域とともに推進する特色ある学校づくりの推進
3 成果指標	全国学力学習状況調査児童生徒質問紙等 ・今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合(小学6年生) (前年) 75.7% (実績) 76.4% (R7 目標) 85.0% ・今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合(中学3年生) (前年) 37.5% (実績) 72.0% (R7 目標) 85.0% ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童の割合(小学6年生) (前年) 91.4% (実績) 94.5% (R7 目標) 66.0% ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある生徒の割合(中学3年生) (前年) 70.5% (実績) 84.8% (R7 目標) 66.0%
事務・事業の内容	
①校用備品(机椅子)の更新 小学校 1,058 台 中学校 672 台 計 1,730 台 ・天板サイズ 縦 50 cm、横 70 cm	成果・課題等 老朽化が進んでいた児童生徒の机椅子の更新について、ICT教育の推進により学習用端末を使用した学習が増えていることから、以前の木製のものより広い天板とし、軽量で運びやすい机椅子に更新したことで、児童生徒の学習環境の向上が図られた。
②通学対策事業 通学路合同点検の実施 8月1日 小中学校通学路(改善・要望箇所)16か所 R7年2月27日 通学路安全推進会議開催 スクールバス・タクシー利用 小学校 遠距離 6校86人 準遠距離 2校28人 中学校 遠距離 2校63人 準遠距離 3校51人 通学対策費補助金(路線バス定期券購入費補助) 小学校 遠距離 3校28人 準遠距離 4校41人 中学校 遠距離 2校14人 準遠距離 2校17人	通学路合同点検については、各学校から要望があった通学路の現地確認を実施した。各関係機関とともに改善が必要な箇所を把握するとともに、安全推進会議を開催し、通学時に支障となっている箇所の対応状況等について情報共有を図るなど、通学路の安全性の向上につなげることができた。 スクールバス・スクールタクシーの運行により、路線バスが運行していない地域の児童生徒の通学手段を確保するとともに、路線バス定期券の購入補助により、通学に係る費用の負担軽減が図られた。
③獣害・感染症対策 熊よけ鈴…全児童生徒に貸与 熊忌避剤…全小中学校へ配付 通学路の巡回、見守り…花小、花中、尾中 緩衝帯整備事業…花小、大小、尾小、花中周辺の雑草で見通しの悪い場所の下刈りを実施 感染症対策用消耗品等…消毒液、マスク等	登下校時通学路において、熊の出没に伴う安全対策として児童生徒へ熊よけ鈴を配付するとともに、学校周辺に熊を近づけないように忌避剤の設置や雑草等の下刈りを行った。目撃情報があつた時は、通学路の巡回や見守り活動を行い、児童生徒の安全確保が図られた。 また、文部科学省の衛生管理マニュアルに基づき、学校における感染症対策の徹底を図った。

④鹿角市学校多忙化防止計画の推進 「第2次鹿角市立小・中学校多忙化防止計画」に基づき、学校の業務改善を図り、児童・生徒と向き合う時間の確保や教育の質的向上を図っている。 令和6年度の勤務時間外在校時間の月平均（目標：月平均45時間以内） 小学校：年間平均31.2時間（前年度比-1.8時間） 中学校：年間平均41.2時間（前年度比-0.7時間）	多忙化防止計画に基づき、各校で勤務時間の管理、日常事務や各種行事に関して目標を設定した業務改善計画を策定し、それぞれ改善に向けた取組を行った。授業時間の余剰時数の削減が進み、勤務時間外在校時間の年間平均は、小・中学校ともに減少しており、改善が図られている。 今後のさらなる改善を図るべく、令和7年度からの「第3次鹿角市立小・中学校多忙化防止計画」を策定した。
⑤鹿角市初任者研修の充実 小学校教諭 12人 中学校教諭 6人 5月22日、8月21日実施 （先人顕彰館、大湯ストーンサークル館、グループ協議、教育長講話 等）	新任教員が研修を通じて地域の歴史・文化・自然等に直接触れることにより、地域の実情等について理解を深めるとともに、指導力と使命感を養わせる機会となった。
⑥コミュニティ・スクールの推進 8協議会（尾去沢・八幡平は小中合同） 委員 延べ115人 協議会3回、熟議1回開催	学校運営協議会が適切に運営されることにより、学校と地域住民や保護者等の委員が情報を共有するとともに、学校運営に関する意見を生かし、地域と一体となって運営に取り組むことで子どもたちを育む意識の醸成が図られ、地域とともにある学校づくりの推進につながることができた。
⑦特色ある学校づくり推進事業【再掲】 地域の特色を生かした体験学習等の実施 小学校6校すべてで実施 キャリアアップ講座等の講演会の実施 中学校4校すべてで実施	すべての小中学校において地域の特色を生かしたカリキュラムをつくり、地域の方々からの協力も得ながら、伝統文化、芸能、農業、観光ガイドなど、地域に根差したキャリア教育の充実を図ることができた。当日の体験学習のほか、事後の学習として、学んだことをまとめて地域等で発表することで、表現力の向上につながることができた。
⑧ふるさとかつの絆プラン事業【再掲】 小学校6校すべて実施 開催総数12回 中学校4校すべて実施 開催総数4回	各校で行っている特色ある教育活動について、小学校同士や中学校同士が連携して、体験フィールドを市内全域に広げて実施した。児童生徒がそれぞれの地域にある農作物の収穫や伝統芸能などを体験したり、観光ガイド等で交流したり、他校の活動と一緒に参加することで、視野を広げ、ふるさと鹿角の良さを知る機会となっているほか、市内の伝統や文化等を探求することにもつながっている。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	
評価理由：成果指標のうち、「地域行事に参加している割合」は小中学校とも目標率を下回ったが、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある割合」は小中学校とも目標値を上回った。 学校運営協議会を組織することにより学校と地域が情報を共有し、連携して取組を行う体制を構築することができたほか、地域の協力のもと伝統文化や農作業等に取り組むことにより、地域の魅力を知ることができ、地域が抱える課題を把握し、自分たちに何ができるかを考える機会を与えることができた。 教職員の働き方改革を推進し、教職員が児童生徒一人一人に向き合うことができる環境づくりに努めた。	

Ⅱ 生涯学習推進の基本方針と重点目標

1 基本方針	生涯にわたって、いつでも、どこでも、だれでも学習できる機会を充実し、その成果を生かすことができる、地域社会の実現を目指す。	
2 重点目標	(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成 ①社会教育関係団体、福祉関係団体、自治会等との連携 ②インターネットの活用による情報発信の強化 ③社会教育施設等の連携による生涯学習環境の充実 ④読書を通じた多様な学習活動の推進	
3 成果指標	インターネットを活用した講座の年間開催数 (前年) 3 件 (実績) 5 件 (R7 目標) 5 件 社会教育施設年間利用者数 (前年) 230,922 人 (実績) 223,685 人 (R7 目標) 313,300 人 図書館(移動図書館車含) (前年) 90,324 人 (実績) 84,069 人 (R7 目標) 130,000 人 先人顕彰館 (前年) 1,356 人 (実績) 1,165 人 (R7 目標) 1,600 人 歴史民俗資料館 (前年) 1,495 人 (実績) 1,441 人 (R7 目標) 1,700 人 大湯ストーンサークル館 (前年) 29,144 人 (実績) 23,600 人 (R7 目標) 30,000 人 文化の杜交流館(図書館、未来センター、花輪市民センター除く) (前年) 108,603 人 (実績) 113,410 人 (R7 目標) 150,000 人	
事務・事業の内容		成果・課題等
①-1 地域学校協働活動推進事業 ・個人・団体のボランティア参加者延べ 2,158 人 ・あきた未来塾の共催(児童センターほか) 5 団体 開催回数 13 回 参加者延べ 265 人 ①-2 成年教育講座 ・鹿角学校、かづの校との共催による講座の開催 2 回 参加者延べ 157 人 ①-3 花いっぱい運動への参加 ・自治会、老人クラブ、婦人会、環境保全隊、学校等 参加団体 56 団体 ①-4 鹿角の未来創造わげもの塾 ・鹿角高校・市内外高校生、十和田中生と地元在住塾生の 連携、武蔵野大学・大正大学生の参画 ①-5 二十歳のつどい ・二十歳のつどい実行委員会との共催 実行委員 15 人 ・実行委員会 5 回開催 ①-6 文化財保存活用地域計画策定事業 ・小坂町と共同で策定		地域学校協働活動は認知度が上がり、子どもたちの学びに協力してくれる市民や団体が増加したほか、あきた未来塾では引き続き児童センター等との共催により実施できている。 成年教育講座では、高校生に対し時宜をとらえて消費者としての知識や成年としての権利・責任を学ぶ機会を提供でき、実施した学校からの反応も良好であった。 花いっぱい運動は参加団体数は横ばいだが、新規団体の申し込みもあり、花づくりから地域づくりへのつながりが期待される。 鹿角の未来創造わげもの塾や二十歳のつどいでは、高校生や二十歳のつどい対象者との議論で出された意見を積極的に取り入れ、事業を立案・実施することができた。

②-1 SNSアカウント 4サイト ・YouTube ・Facebook ・X (旧 Twitter) ・Instagram (生涯学習課、コモッセ、大湯ストーンサークル館、先人顕彰館、図書館において、各施設が開設) ②-2 オンライン研修会等 ・二十歳のつどい オンライン視聴者 39人 ・地域学校協働活動推進員等合同研修会 オンライン視聴者 9人 ・シン・まほろば塾 (3回) オンライン視聴者 2人 (※講師によるオンライン指導 3回)	インターネットを活用した情報発信は、コロナ禍における事業の代替手段としてスタートしたが、発信回数を増やし、内容の質が向上した結果、度々報道に取り上げられるようになり、フォロワー数等課題はあるものの、徐々に効果が出ている。 オンライン研修会は、会場に足を運ぶのが難しい場合も参加できるメリットがあり、会場参加とオンライン双方のメリットを活かしたハイブリット型の講座の提供で、多様な学びの機会を提供できた。
③施設間連携事業 ・文化の杜交流館連携事業の開催 参加者 延べ 960人 ・地域学校協働本部と花輪図書館、歴史民俗資料館との共催事業 (あきた未来塾) 1回 ・十和田市民センター文化祭への先人顕彰館、大湯ストーンサークル館紹介ブースの設置	コモッセでは、バースデーイベントで従来のコモッセ内施設間連携に加え「わけもの塾の高校生イベント」とコラボしたことにより若い来場者が増え、これまでとは違った趣の賑わい創出につながった。 今後はさらに施設相互利用に繋がるような連携事業を立案していく必要がある。
④-1 読書活動の推進 ・花輪図書館 読書感想画コンクール等 29事業 (十和田図書館との共通事業含む) ・十和田図書館 郷土を語る会、出張貸出等 34事業 ※うち 十和田図書館フィナーレイベント ・8/22「思い出語りの会」 参加者 39人 ・11/10「櫛せつを、的音楽やあれやこれや」ラジオ公開収録コンサート 参加者 18人 ・他フィナーレイベント冠事業 5事業 ④-2 図書館の整備 ・十和田図書館整備事業 2/12完成 RC造2階建 991.50㎡	花輪図書館 100周年の一昨年度とほぼ同数の事業を実施しているが、利用者数、貸出冊数ともにコロナ禍以前の水準には戻っていない。一方、ビブリオバトルが一部の小学校でも実施されたほか、十和田中学校への移動図書館車巡回もスタートし、学校と連携した読書活動が進んできている。 十和田図書館整備事業は、2月12日に完成を迎え、市民が新たな図書館のオープンを心待ちにしているとの声も聞かれる。移転準備に伴う閉館期間中の利用者離れを防ぎ、隣接する十和田市民センターと連携した事業展開等により、新たな利用者層の掘り起こしに努める必要がある。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	
評価理由： 成果指標中、インターネットを活用した講座開催数は目標値に到達。主催者側、受講者側双方にメリットがあり、多様な学びの機会の提供につながっている。 社会教育施設の利用者数は、人口減等の影響もあり目標の約7割にとどまっているが、様々な施設・団体と連携し事業展開を図り、情報発信にも努めている。新十和田図書館の移転新築も予定通り実施し、生涯学習環境の充実が図られたことから、新施設を核に市民の学ぶ意欲が高まるものと期待される。	

2 重点目標	(2) 地域を担う人材の育成 ①意欲的に学習活動に取り組む人材の育成 ②市民の主体的な地域活動への支援
3 成果指標	どごさデモ出前講座年間利用件数 (前年) 194 件 (実績) 182 件 (R7 目標) 170 件 市民センター新規サークル登録団体延団体数 (5 年累計) (前年) 30 団体 (実績) 37 団体 (R7 目標) 20 団体
事務・事業の内容	
①-1 「どごさデモ」出前講座の開催 ・提供講座数 42 メニュー 開催回数 182 回 参加者延べ 3,656 人 ①-2 かづの人財発掘事業「情報発信講座」の開催 ・開催回数 2 回 (8/4、12/14) 参加者延べ 39 人 ①-3 「鹿角の未来創造わけもの塾」の開催【再掲】 ・ミーティング開催回数 2 回 (7/7、12/1) 参加者延べ 18 人 ・イベント実践回数 4 回 (4/21、9/21、10/6、2/15) 主催側参加者延べ 50 人 ①-4 市民センター新規サークル登録 ・令和 6 年度 7 団体 (花輪 5 団体、十和田 2 団体)	成果・課題等 出前講座の利用件数は前年度比若干の減となっているが、自治会・学校・企業等から年間を通じ利用されており、学びのニーズに合致したメニューを利用しやすい形態で提供できている。 情報発信講座では、自ら学び、さらに学びを還元しようと行動する地域の人を講師に迎え、地域の食文化をしっかりと情報発信し、後世につないでいくための講座が実施できた。 わけもの塾では、高校生が中心となり、大人はサポート役として参加することで、イベントの「立案、企画、実施」を若者に主体的にかかわらせることができた。 市民センターの講座等をきっかけとした自主学習グループ(サークル)が複数立ち上がり、意欲的に学ぶ人材の育成につながった。
②-1 花いっぱい運動【再掲】 ②-2 高校生ボランティアの活動支援 ・ボランティア参加者数 鹿角高校 169 人 鳳鳴高校 25 人 桂桜高校 7 人 国際情報 13 人 ②-3 地域学校協働活動推進事業【後掲】	鹿角地域の高校が鹿角高校に集約されたことからボランティア総数は減少したものの、市外の高校からも一定のニーズがあり、高校生の地域参加を促すことができた。
点検及び評価	
☒ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	
評価理由： 出前講座は前年度実績値は下回ったものの目標を上回り、市民の学びのニーズや利用ニーズに合わせた事業展開ができた。市民センター新規サークル登録数も目標値を上回り、登録団体には市民センターでの学びを経て結成に至った団体もあることから、積極的に学ぼうとする意欲ある人材が育成されている。	

2 重点目標	(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援 ①地域学校協働活動の推進 ②家庭教育支援の推進 ③青少年の健全育成を支える市民活動の推進
3 成果指標	地域学校協働活動におけるボランティア延べ人数 (前年) 1,897 人 (実績) 2,158 人 (R7 目標) 1,250 人 青少年育成鹿角市民会議の会員数 (前年) 318 会員 (実績) 315 会員 (R7 目標) 350 会員
事務・事業の内容	
①地域学校協働活動推進事業【再掲】 ・地域学校協働本部会議の開催 2 回 ・コーディネーターの配置 7 人 (統括 1 人、地域コーディネーター 6 人) ・学校支援ボランティア 延べ 2,084 人 ・あきた未来塾の開催 5 教室 13 回 参加者延べ 265 人 ボランティア 延べ 61 人 ・かづの未来塾の開催 12 回、 参加者延べ 187 人 ボランティア 延べ 13 人 ・子ども対象事業年間スケジュール表「ばらえてい いん ふお」の発行 通年版 1 回、改訂版 2 回発行	成果・課題等 学校支援ボランティアは例年以上の協力が得られた。学校行事の増に加え、コーディネーターの呼びかけや活動の PR により認知が上がっていると考えられるが、参加者の固定化や学校と保護者との調整にかかわるコーディネーターの負担軽減などが課題である。 あきた未来塾やかづの未来塾は参加児童生徒・保護者ともに好評で、ニーズに合った学びを提供できているが、児童生徒数の減少が進んでおり、将来的には事業の実施手法の検討が必要。
②家庭教育推進事業 ・保護者向け家庭教育講座の開催 小学校 2 回／2 校 中学校 2 回／2 校 参加者延べ 197 人 ・小学校新入学児童保護者向け子育て講座の開催 小学校 6 校 参加者延べ 159 人	いづれの講座でも参加者の満足度は高く、学校の希望に合わせた講師選定が功を奏し、学びの効果が高まった。 開催希望校が固定化傾向にあり、開催実績のない学校への働きかけが必要である。
③青少年健全育成事業 ・声かけ運動 年 10 回 (4・9 月は一斉キャンペーン) ・高校生ボランティアの活動支援【再掲】 ・「青少年を育てる市民のつどい・PTA 活動を考える会」の開催 参加者 100 人	声かけ運動は、市民が気軽にできる青少年を見守る活動として広く浸透し、子どもたちや保護者にとって通学時の安心感にもつながっている。 市民会議は新規会員が 7 人あった一方、高齢化や転出等による退会者の増加があり、会員数は前年度比で減となった。理念に賛同いただける会員の獲得と活動の PR が課題。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	
評価理由： 地域学校協働活動のボランティア数は目標を大きく上回った。活動認知度向上、コーディネーターの尽力に加え、地域住民・団体の「子どもたちの学びや育ちを支える」理念の浸透が大きいと考えられる。 一方、青少年育成鹿角市民会議の会員数は人口減も影響し、伸び悩んでいる。青少年健全育成運動に対し市民の理解を得るため、PR 活動を増やす必要がある。	

2 重点目標	(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援 ①同世代交流・世代間交流、人的ネットワークの拡充 ②地域の歴史や伝統、文化、人材を生かした学習活動の推進 ③学びの成果を地域に還元し、次世代に継承する活動の支援
3 成果指標	生涯学習・社会教育講座年間参加者数 (前年) 20,195 人 (実績) 18,658 人 (R7 目標) 18,000 人 ふるさと・キャリア教育受入新規登録事業所延べ件数 (5 年累計) (前年) 12 件 (実績) 15 件 (R7 目標) 15 件
事務・事業の内容	成果・課題等
①-1 「二十歳のつどい」の開催【再掲】 ・式典、記念事業の開催 1 回 (1 月) 参加者 158 人 オンライン視聴 (再掲) ・新成人による実行委員会の開催 (再掲) ①-2 市民センターにおける同世代(青少年)教育関連事業 ・花輪市民センター 「サタちびっ」 2 回開催 参加者延べ 33 人 ・十和田市民センター「わんぱくスクール」 6 回開催 参加者延べ 330 人 ・尾去沢市民センター「ふれあいかなやまスクール」 7 回開催 参加者延べ 338 人 ・八幡平市民センター「青年・子どもレクリエーション事業」 3 回開催 参加者延べ 71 人 「放課後チャレンジ広場」 3 回開催 参加者延べ 116 人 ①-3 市民センターにおける世代間交流関連事業 ・市民運動会の開催 2 地区 (尾去沢、八幡平) ・スポーツレクリエーション大会の開催 (花輪) ・「十和田の日」イベント開催 (十和田) ①-4 高齢者の活動支援 ・老壮大学等 参加者延べ 2,361 人	二十歳のつどいでは、会場となるコモッセに参加者、保護者、来賓含め数百人が一堂に会し、懐かしい同級生たちとの再会に会場に笑顔が広がり、同世代・世代間交流の場となった。消防団など他部局との連携も行い、若者の地元定着や U ターン希望者への PR の場を提供できた。 市民センターにおける各種事業は、新たな企画もあった一方で、例年通りの内容に終始したセンターもあったほか、参加者数もばらつきがみられる。身近な社会教育の拠点として、今後はより一層地域や社会の要請に応える事業展開が求められる。 老壮大学等の参加者数は前年度とほぼ同数であるが、働く高齢者に対する学びの場や同世代との交流の場を提供し続けていく必要がある。
②-1 生涯学習奨励員活動【後掲】 ②-2 十和田図書館・史談会連携講座 ・「郷土を語る会」 計 11 回 参加者 202 人 ②-3 歴史民俗資料館主催講座 ・民俗学入門ほか 計 4 回 参加者延べ 78 人 ②-4 先人顕彰館主催講座 ・内藤湖南を知る会ほか 計 28 回 参加者延べ 441 人 ②-5 地域学校協働活動推進事業【再掲】	郷土を語る会は高齢者の参加が主だが、地域の歴史学習に対する根強いニーズがある。市外からの参加者も増加傾向にある。 歴史民俗資料館では、常設展示のほか鹿角街道など、鹿角市の歴史に関係する 5 つの企画展を開催したほか、民俗学講座や郷土食の体験講座を開催した。先人顕彰館では、前年度に引き続き館長講座を企画したほか、親子絵画教室やおとなの書道講座、人物事典講座を継続して行うことで幅広い層の来館促進や館の周知を図った。 それぞれの社会教育施設が持つ強みを生かしながら、歴史や伝統、文化を生かした学習機会を提供することができた。

③-1 生涯学習奨励員活動【再掲】 ・生涯学習奨励推進協議会の開催 1回 ・鹿角ワークショップコレクションの開催 (8/10) 参加者延べ300人 ・「生涯学習サポートDAY」における奨励員と鹿角高校生、小学生との茜染体験会の開催 (12/7) ・地区文化祭での奨励員による活動紹介 ③-2 「鹿角の未来創造わけもの塾」の開催【再掲】 ③-3 ふるさと・キャリア教育推進事業【再掲】 ・登録事業所 180事業所 (R6.12現在) ・職場見学 受入事業所 延べ35事業所、参加者延べ934人 ・職場体験 (個人「夢たん」含む) 受入事業所 延べ107事業所、参加者延べ236人 ・職業講話 協力事業所 延べ12事業所、参加者延べ121人	奨励員が講師となって地域住民に体験型学習の機会を提供するイベントや、鹿角高校生とともに小学生を指導した茜染体験会等、奨励員の能力を活かした活躍の場を創出するとともに、地域住民には様々な学びを体験しやすい形で提供できた。 学校での学習が多様化しており、職業講話は、見学・体験と合わせて、子どもたちが地元企業を知り将来を考える機会を提供できた。事業所の状況を踏まえ、子どもたちの希望に合わせた対応をすることで、職場体験学習を効果的に進めることができた。
点検及び評価	
☒ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	
評価理由： 成果指標は両項目とも目標に到達した。基本目標（２）の成果指標と合わせて判断するに、ニーズに合った学習機会を提供できていることが講座等参加者の増につながり、あわせて参加者間の交流も進んでいると考えられる。同世代交流・世代間交流を主導する市民センター事業に一部にマンネリ化が見られるものの、地域の実情に合わせた結果であり、次年度以降、内容の見直しなどを含め検討を促す。 子どもたちの学びの支援は、地域学校協働活動の浸透やふるさと・キャリア教育推進により手厚くなっている。一方で、定年延長や労働人口の減少に伴い、働く高齢者は増加しており、高齢者層の学びの機会をどのように提供していくか、今後検討が必要である。	

2 重点目標	(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現 ①障がい者・児童の学習活動の支援 ②共生社会に対する市民の意識向上 ③日本語を母国語としない市民の日本語及び日本文化に対する学びの支援		
3 成果指標	障がい者・児童に配慮した生涯学習講座等の延べ提供数 (5年累計) (前年) 18 講座 (実績) 25 講座 (R7 目標) 20 講座 日本語教室延べ参加者数 (前年) 55 人 (実績) 178 人 (R7 目標) 280 人		
事務・事業の内容		成果・課題等	
① 「比内支援学校かづの校」の学習活動支援 ・十和田図書館での「比内支援学校かづの校ミュージアム」の開催 見学者 50 人 ・声かけ運動一斉キャンペーンでのリンゴレンジャーの活動支援 レンジャー5 人 ・高等部生徒を対象とした成年教育講座の開催 参加者 20 人		比内支援学校かづの校の児童生徒の活動支援を展開し、ミュージアムやリンゴレンジャー活動の支援では、障がいのある児童生徒の学習活動の成果を広く市民へ伝える一助となった。 かづの校生徒向けの成年教育講座は、学校からの反応も良好で、消費者としての知識や成年としての権利・責任を学ぶ機会をわかりやすく提供できた。	
②-1 パラスポーツ・ユニバーサルスポーツ体験 ・十和田市民センタースポーツ交流会「ボッチャ大会」 参加者 49 人 ・「十和田の日」イベント ボッチャ・モルック体験 ・「鹿角ワークショップコレクション」のコーナーにおけるボッチャ・モルック体験 ②-2 社会教育施設での啓発活動 ・花輪図書館・十和田図書館での「りんごの棚」コーナー設置 (※バリアフリー図書コーナー) 通年 ・花輪図書館主催 バリアフリー映画上映会「春に散る」 参加者 120 人		過去に実施実績のある「ボッチャ」に加え、近年ユニバーサルスポーツとして人気が出てきている「モルック」体験も複数回実施した。「誰でも」楽しめるスポーツ」としての本質に触れることができた。今後は障害児・者とのスポーツ交流へと発展させたい。 図書館という“誰でも”利用できる施設においてバリアフリーに関する展示や映画上映会を実施することで、広く市民に対し意識の啓もうが図られた。	
③日本語講座開設事業 ・日本語教室の開催 27 回、参加者延べ 178 人		開催場所や時間帯を見直したことが功を奏し、参加者は増加したが、多くが技能実習生となり、当初の教室開設目的であった「日本語を母国語としない住民の日常生活の困難さを軽減する」目的からは離れてきている。日本語検定試験対策や実習生を抱える企業支援が目的になっており、事業自体の見直しが必要である。	
点検及び評価			
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る			
評価理由： 障がい者・児童に配慮した生涯学習講座等の延べ提供数は目標値を上回ったが、障がい者向けの講座と健常者向けの障がい理解講座に大別され、「共に学びあえる」講座となっていない。また、日本語教室への参加者数は前年度より大きく改善したものの、技能実習生の参加が大半であった。いずれの事業もニーズや社会の要請はあるが、目的や手法の見直しが必要である。			

Ⅲ スポーツ推進の基本方針と重点目標

1 基本方針	スポーツへの参加を促進する取組の充実を通じて、スポーツに親しみ、心身ともに健康で文化的な生活を営むことができる地域社会の実現と、恵まれたスポーツ環境を生かして活力に満ちたまちづくりを展開する。		
2 重点目標	(1) 生涯スポーツの普及推進 ①生涯スポーツの充実 ②スポーツによる健康づくりの推進 ③スポーツボランティアの普及促進		
3 成果指標	週1回以上、運動やスポーツに親しんでいる市民の割合 (前年) 57.0% (実績) 62.5% (R7 目標) 65%		
事務・事業の内容		成果・課題等	
①チャレンジデーの開催 参加率 15.2% 参加者 4,127 人		実施については、市単独となり、例年とは違った形での集計方法となったため、前年度に引き続き目標を大きく下回る結果となり、全市民を対象とした継続した取り組みの難しさを感じた。	
②タートルマラソンの開催 (5km : 15 人、3km : 55 人、1km : 138 人)		幅広い年代が参加したタートルマラソンは、健康づくりの一翼を担う大会として世代間交流が図られた。	
③総合型地域スポーツクラブの育成 市内で3つのクラブが活動しており、地域住民を対象に子どもから高齢者まで、それぞれの志向やレベルに合わせたスポーツ教室などを実施 ・鹿角ウインプル ・十和田スポーツクラブ ・くらすた		総合型地域スポーツクラブの育成では、各クラブの特色を生かした事業展開が行われているが、指導員等の不足から今後の体制づくりや活動については、検討する必要がある。	
点検及び評価			
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る			
評価理由： 成果指標については、保健分野（すこやか子育て課）と連携し市民向けセミナーや動画配信等したことにより、健康意識の高まり、行動変容を促すことにつながり、運動やスポーツに親しむ市民の割合も増加傾向となった。 今後、運動やスポーツに親しむ機会を増やすきっかけ作りのためにも、地域における指導員やクラブ運営を担う人材の世代交代・後継者確保といった地域のスポーツ環境の基盤強化に対する支援が必要と考える。			

2 重点目標	(2) スポーツによるまちづくりの推進 ①「スキーのまち」の推進 ②「駅伝のまち」の推進 ③スポーツ拠点づくりの推進 ④子どもたちの夢と希望を育むスポーツ環境の充実	
3 成果指標	スポーツ合宿奨励補助金利用人数 (前年) 2,540 人泊 (実績) 3,069 人泊 (R7 目標) 3,300 人泊 共通シーズン券購入補助制度利用人数 (前年) 78 人 (実績) 58 人 (R7 目標) 90 人 浅利純子杯争奪鹿角駅伝、十八駅伝エントリーチーム数 (前年) 87 チーム (実績) 72 チーム (R7 目標) 120 チーム	
事務・事業の内容		成果・課題等
①スポーツ拠点づくり推進事業 サマーノルディックスキー大会 参加者数 206 人 スポーツ合宿奨励補助事業 申請団体 45 団体 交付人数 901 人		スポーツ合宿奨励事業の申請者数は、国スポ開催のほか、前年度の雪不足とは違い、安定した積雪のためスキー競技で約 8 割の利用が見込まれた。また、特例として十和田八幡平駅伝競走大会参加チームでの利用もあったほか、R2 からバレーの強豪校や新たに公式野球が合宿を行った。
②「スキーのまち」の推進 全国ローラースキー選手権大会 参加者数 287 人 岩泉杯松橋杯争奪少年ジャンプ大会 参加者数 12 人 ジュニアスキーヤー共通シーズン券発行 発行人数 58 人		ローラースキーについては、国際スキー連盟公認大会として実施しており、海外選手をはじめ国内選手も多く出場した。 共通シーズン券については、利用した小中学生数が、前年度比を大きく下回った。
③「駅伝のまち」の推進 十和田八幡平駅伝競走全国大会 エントリーチーム数 16 チーム 参加チーム数 16 チーム 浅利純子杯争奪鹿角駅伝 エントリーチーム数 56 チーム 参加チーム数 56 チーム		十八駅伝の参加チーム数は、新規チームの参加もあったが前年度比で減少している。また、女子チームは 1 団体 3 チームから参加があった。 浅利純子杯争奪鹿角駅伝については、青森・岩手県を中心に参加チームが増加傾向にある。
④はばたけアスリート鹿角コーチング事業 陸上ジュニアクリニック 参加者数 44 人 ローラースキージュニアクリニック 参加者数 42 人 ジュニアスキーヤー（スキー授業）指導者派遣事業 小学校 6 校、中学校 2 校 延べ 23 回 132 人 特別講師派遣事業 比内支援学校		ジュニアクリニックについては、専門分野からの指導と幅広い指導を受けることができた。また、スキー授業については、雪の影響がなく通常通り開催することができ、市内 8 校が実施した。
⑤スキー駅伝選手育成強化対策事業 アルペン 1 事業、クロカン 2 事業、ジャンプ 4 事業、 駅伝 1 事業		通年を通じた合宿等により、全国大会等での入賞者が多数あるなど、選手強化が図られた。
点検及び評価		
□目標を上回る ■ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る		
評価理由：成果指標については、コロナの終息に伴い、交流人口は増加しており、特に国民スポーツ大会の開催による波及効果が強く影響している。市主催大会などでは参加者数の減少もあったものの、内容の精査をしつつ可能な限り開催することができ効果は高かった。 スキーの全国規模の大会開催が令和 7 年度まで決定しているものの、現時点では令和 8 年度以降の大会開催は検討段階にある（分離開催は除く）。交流人口の拡大を図り経済波及の必要性はあると思われるが、役員の高齢化や役員不足が顕著に表れており、今後も継続的な大会受け入れに向けたボランティア等による人材確保を図る必要がある。		

2 重点目標	(3) 指導体制の確立と指導者の育成 ①スポーツ団体の組織強化と活動の充実 ②指導者の育成と活用		
3 成果指標	市スポーツ協会の構成員数 (前年) 5,602 人 (実績) 5,280 人 (R7 目標) 5,500 人 ジュニアクリニック受講者の大会参加者数 (前年) 176 人 (実績) 336 人 (R7 目標) 1,000 人 市スポーツ少年団指導者等登録人数 (前年) 230 人 (実績) 213 人 (R7 目標) 340 人		
事務・事業の内容		成果・課題等	
①市民スポーツ活動を支える団体との連携拡充 スポーツ協会は、統括組織として市民スポーツの健全な普及・発展を図るとともに市民の健康づくりに寄与している。 また、記念スポーツセンター、城山・毛馬内野球場の指定管理者となっており、効率的で安全な施設の管理を行っている。		市スポーツ協会は、市民のスポーツ活動を支える団体であり、安全かつ快適なスポーツ環境の充実に努めているが、団体の性質上、自主財源の確保が難しいことから、引き続き支援していく必要がある。	
②指導者の育成と活用 資格取得のための講習会が開催され、補助制度による負担軽減を図り、指導者を確保する。		指導員制度の改正に伴い事務手続きが煩雑になっている。また、更新料等も値上がるなど指導者負担が増加している。団員数の減少でスポーツ少年団として対応できる有無が問われている。中学校の部活動への移行も検討されている中で指導者の活用が不明瞭なため継続的な支援が必要と考える。	
点検及び評価			
□目標を上回る □ほぼ目標どおり ■目標をやや下回る □目標を大幅に下回る			
評価理由： 成果指標については、中学校部活動の地域移行を見据えた対応として協会・高校との連携が構築できたことは、新たな種目での開催にも期待できるものであるものの、地域のスポーツ振興の進め方を見直す必要があると考える。特に、スポーツ振興の推進母体となり得るスポーツ協会の体制強化等が、指導者等の活用にも直結することから、本市に適した体制の検討を早急に進めることとしたい。			

2 重点目標	(4) スポーツ施設の利用促進と整備 ①スポーツ施設の利用促進 ②スポーツ施設の整備・充実	
3 成果指標	スポーツ施設の利用者数 (前年) 173,736 人 (実績) 198,236 人 (R7 目標) 260,000 人	
事務・事業の内容		成果・課題等
①スポーツ施設の利用促進 市営野球場 城山、毛馬内 (4/10～11/10) 利用者数 5,408 人 市民プール 鹿角 (旧花輪) 利用者数 8,821 人 東山スポーツレクリエーションエリア 利用者数 81,013 人 ※種苗交換会を除く アメニティパーク 利用者数 23,228 人 記念スポーツセンター 利用者数 18,134 人 水晶山スキー場 利用者数 8,992 人 市立ゲートボール場 利用者数 810 人 大湯相撲場 利用者数 281 人 スポーツ振興課所管以外 利用者数 51,549 人		施設利用について、昨年度との比較では、年間を通した利用があったことから利用者は増加傾向にある。 今後は、計画的な施設整備 (工事や修繕) 等により改善を図りつつ、施設利用者の利便性向上を図る必要がある。
②スポーツ施設の整備・充実 ○鹿角トレーニングセンターアルパス ・浄化槽機器取替修繕 ・体育館フロア換気口修繕 ・屋内消火栓ホース購入 ・厨房ガス給湯器取替修繕 ・業務用冷蔵庫購入 ・業務用電子レンジ購入 ○花輪スキー場 ・貯水池水門修繕 ・ジャンプ台ゲート補修工事 ・圧雪車格納庫内外改修工事 (建築・電気) ・圧雪車修繕 ・圧雪車購入 ○鹿角市総合運動公園 ・テニスコート人工芝修繕 ・高圧気中開閉器更新工事 ○鹿角市民プール ・PAC 注入ポンプ交換修繕 ・圧力検知制御盤更新工事 ○水晶山スキー場 ・第1ペアリフト握索機交換業務委託 ○記念スポーツセンター ・埋設管切り離し工事		施設整備においては、施設の老朽化に伴い緊急的な修繕等が増加している状況にある。 利用者の利便性に配慮しつつ、安全・安心な施設利用を図るため、鹿角市公共施設等総合管理計画に基づき、計画的な改修・更新等を進める必要がある。
点検及び評価		
□目標を上回る ■ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る		
評価理由： 成果指標については、通常の施設利用のほか各種イベントが開催されたことに伴い例年に比べ増加している。また、年間を通した利用が可能となったことで屋内練習 (テニスやサッカー、野球) の利用が増えていることから今後も状況を把握しつつ対応する必要がある。 また、利用者の増加により施設管理に対する計画的な更新等を検討する。		

Ⅳ 文化芸術振興の基本方針と重点目標

1 基本方針	ふるさと鹿角の歴史・伝統・文化への理解を深め、創造力と感性を育み、郷土が世界に誇る文化遺産を核とした心豊かで活力ある地域社会の実現を目指す。		
2 重点目標	(1) 文化芸術活動の振興 ①文化芸術に触れる機会の充実 ②特色ある文化芸術活動の推進		
3 成果指標	一年間に芸術鑑賞に親しんだ割合 (前年) 44.1% (実績) 43.7% ※R6.6 調査 (R7 目標) 45.0%		
事務・事業の内容		成果・課題等	
①文化の杜交流館事業 ・文化ホール入館者数 24,650 人 ・文化ホール自主事業の開催 7 事業 入場者延べ 1,706 人 ・チャレンジ体験事業 3 事業 参加者延べ 12 人 ・市民サポーター企画事業の開催 3 回 参加者延べ 226 人		文化ホール自主事業では多様なジャンルの催しを提供したことにより、市民自身が関心のある催しを選択し感動を享受した。 ミュージカルを製作・上演した事業では、ワークショップに参加した市民のスキルアップのほか、コミュニケーションの学びに繋がった。一方、製作作品を観て楽しむ文化の普及が必要である。 引き続きチャレンジ体験など市民参加型事業をより充実させ、市民と共働でコモッセの魅力を幅広い年齢層の方々に体感してもらえる機会を創出したい。	
②-1 文化芸術振興事業 ・第 52 回鹿角市かるた選手権大会 参加者 63 人 ・歴史民俗資料館企画展示「ひな飾り」 入館者 196 人 ・花輪市民センターギャラリー展示「日本画家奈良裕功生誕 130 年展」、「高屋館跡出土資料展」 ②-2 市民センター「文化祭」 ・花輪市民センター 来場者 2,321 人 ・十和田市民センター 来場者 2,800 人 ・尾去沢市民センター 来場者 732 人 ・八幡平市民センター 来場者 1,080 人		52 回目となった鹿角市かるた選手権大会は、小学生から有段者まで白熱した試合が展開され、競技かるたの盛んな鹿角の特色を活かした文化芸術活動を推進できた。 歴史民俗資料館では、市所蔵のひな人形や市民団体製作のつるし飾りなどの手芸作品の展示を行い、コモッセでは絵画展や出土資料展を行うなど、地域文化や市民活動を周知することができた。 市民センター文化祭は、センターで学習活動を展開している団体の作品展示や、各地区の特色を打ち出した展示は来場者に好評であり、多くの市民に文化芸術に親しむ楽しさを伝えることができた。	
点検及び評価			
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る			
評価理由： 一年間に芸術鑑賞に親しんだ割合は、前年比 0.4%減であるが、目標値 45.0%まであとわずかであり、芸術鑑賞に触れる機会の充実は図られているものと判断できる。 また、文化ホール入館者数は前年より 1,764 人少なくなっているが、新しい取り組みとして市民による手作りのミュージカルの製作・上演を行うなど、前年より自主事業の開催は 1 事業増えており、芸術鑑賞に親しんだ割合も増加している。かるた選手権大会の参加者数や市民センター「文化祭」の来場者数は、どちらも前年を上回る数値となっており、参加者の満足度も高かった。			

2 重点目標	(2) 文化財の保存と活用 ①文化財の保存・継承 ②文化財の活用
3 成果指標	無形民俗文化財の保存を担っている団体の構成員数 (前年) 1,632 人 (実績) 1,623 人 (R7 目標) 1,740 人
事務・事業の内容	成果・課題等
①-1 文化財保存事業 ・古文書整理 42 回(週 1 回) 解読ボランティア 3 人、入力補助ボランティア 1 人、助言指導 2 人 ・古文書活用委員会の開催 3 回 ・古文書活用講座の開催 3 回、参加者延べ 17 人 ①-2 無形民俗文化財担い手育成事業 ・無形民俗文化財担い手育成事業費補助金 3 件 ①-3 声良鶏保存奨励事業 ・声良鶏保存奨励金 1 件 ①-4 花輪祭の屋台行事保存修理事業 ・花輪祭の屋台行事保存修理事業費補助金 1 件 (修理屋台：六日町(1 年目)) ①-5 文化財保存活用地域計画策定事業【再掲】 ・地域計画策定協議会 2 回開催 ・市民アンケート、学校・事業所アンケート ・文化庁協議 2 回(うち 1 回は現地指導) ・計画(案)に関するパブリックコメント実施	古文書整理では、解読ボランティアの協力を得て平成 30 年度より 8 万点余りの資料の目録作成作業を行っており、全体箱数の約 70%の目録を作成することができた。また、古文書などの資料公開に向けたガイドラインの作成、資料公開審議の方法などの検討を進めているほか、古文書解読などに興味を持つ人材を育成するための講座として「シン・まほろば塾」も開講している。 後継者育成を後押しするため、前年度に創設した無形民俗文化財担い手育成事業費補助金では、大日堂舞楽、花輪祭の屋台行事、毛馬内の盆踊の 3 つの保存団体に担い手育成や用具の購入等に係る事業に対し交付した。無形民俗文化財の保存団体の構成員数は想定を上回るペースで減少しており、それぞれの団体が抱えている課題解決を図る必要がある。 声良鶏保存関係では、保存会への奨励金等による支援を継続し、育雛管理や春と秋の大会などを通じて PR 活動の後押しした。会員数が 5 名と少ないため、毛馬内の歩行者天国での展示などで声良鶏の周知を図り、会員の増加につなげたい。 花輪祭の屋台行事保存修理事業では、今年度は六日町屋台を修理し、計画的に事業を進めている。(10 町内中 6 町内実施) 文化財保存活用地域計画策定事業では、同じ文化圏である小坂町と共同で作業を進め、文化庁協議等を経て計画案をまとめ、パブリックコメントの実施や関係各課との調整等を行い、素案を作成した。

②-1 歴史民俗資料館の運営 ・入館者数 1,441 人 (R5 : 1,495 人 前年比 96.4%) ・企画展の開催 5 件、参加者 1,237 人 ・体験学習、講座の開催 4 件、参加者 78 人 ②-2 先人顕彰館の運営 ・入館者数 1,165 人 (R5 : 1,356 人 前年比 85.9%) ・特別展示 「鹿角の風土を詠んだ人々」 ・文化講演会の開催 1 回、参加者 38 人 ・講座、教室、フィールドワーク等の開催 27 回、参加者 403 人 ・「内藤湖南・十湾書簡集第二集」の発刊 ②-3 鹿角市民俗芸能フェスティバルの開催 ・入場者数 378 人 ・出演団体 5 団体 ・からめ節金山踊り ・大森親山獅子大権現舞 ・水沢盆踊り太鼓 ・五代獅子舞（青森県弘前市） ・沢田鶏舞（青森県十和田市）	歴史民俗資料館は、常設展示のほか鹿角街道など、市の歴史に関係する 5 つの企画展を開催したほか、民俗学講座や郷土食の体験講座を開催するなど、文化財を活用した生涯学習の推進を図ることができた。 先人顕彰館は、市にゆかりのある偉人に関わる展示や伝説の地を巡るフィールドワークなどを通じて、先人たちの偉業を学ぶ機会を創出しているほか、前年度より引き続き実施している館長講座により内藤湖南を知る機会を増やすなど工夫した取り組みにより、来館促進や館の新たな魅力発信につながった。しかしながら、1 講座当たりの参加者数の減少に伴い、全体の入館者数が前年度より 191 人少なくなった。 民俗芸能フェスティバルでは、将来の担い手である子どもたちにスポットを当て、市内外の民俗芸能を披露いただいた。幼児から高校生までの子どもたちの活躍に、アンケートでは概ね高評価であった。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	
評価理由： 無形民俗文化財の構成員数の減少は続いており、令和 7 年目標の 1,740 人を大きく下回っているが、後継者育成を後押しするための補助金の創設や、情報交換会の開催により各団体の意見を伺いながら様々な支援策を講じているところである。その他、文化財の保存に関わる各種事業を滞りなく実施しているほか、文化財の保存と活用に関する指針となる計画の策定が順調に進んでいる。	

2 重点目標	(3) 世界遺産の活用推進 ①「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携 ②史跡環境整備 ③大湯環状列石の活用
3 成果指標	世界遺産の活用推進 (実績) 特別史跡大湯環状列石第二次環境整備基本計画の策定 (令和6年度～7年度)
事務・事業の内容	成果・課題等
①「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携 ・ミニパネル展 大湯ストーンサークル館 野中堂ホール ・東京フォーラム、秋田フォーラムへの参加 ・大湯ストーンサークル館講座の開催 来場者 35人	縄文遺跡群世界遺産本部との連携により、東京都や秋田県で開催されたフォーラムにパネラーとして参加し、大湯環状列石の魅力を多くの参加者へ発信することができた。また、館講座を開催し学術的発信を行い、特別史跡としてのネームバリューを高めることができた。
②大湯環状列石環境整備事業 ・大湯環状列石第二次環境整備検討委員会 3回開催 委員8人 ・計画策定の課題に対する小ワーキングの開催 6回	令和5年度に作成した「特別史跡大湯環状列石保存活用計画」に基づいた第二次環境整備基本計画を令和7年度にかけて策定するため、第二次環境整備検討委員会を開催するとともに、第一次環境整備の課題等を検討、解決するための小ワーキングを開催し、次年度完成に向け策定体制を整えた。
③-1 普及啓発・情報発信 ・入館者数 23,600人 (R5:29,144人 前年比81%) ・遺跡ガイド ガイド対応延べ人数 2,182人 (R5:2,016人 前年比108%) 利用人数 6,895人 (R5:9,415人 前年比73%) ガイド利用率 (利用人数/入館者数) 29% (R5:32%) ③-2 学習機会の提供 ・縄文祭の開催 来場者 721人 ・体験学習 (常設) の実施 参加者延べ人数 567人 (R5:615人 前年比92%) ・ガイド入門講座の開催 2回 参加者延べ3人 ・ガイドレベルアップ講座の開催 4回 参加者延べ44人 ・ガイドプロフェッショナル講座の開催 1回 参加者延べ10人 ・体験学習 JOMOラボの開催 12回 参加者延べ425人 (R5:47人 前年比904%) ・ミニ企画展示 6件 ・冬の無料開館ウィーク 延べ216人 ③-3 ユネスコ登録文化遺産の観光活用 ・縄文体感事業の実施 縄文食体験の実施、映像コンテンツの導入	縄文祭を通して、地域住民が大湯環状列石や縄文文化に親しみをもち、学習できる機会を創出したほか、常設体験メニューを拡充し、特に「JOMO ラボ Kids」と称した体験教室にメニューを追加することで、子どもを中心とする多くのファミリー層に縄文文化の価値と魅力を楽しく伝えることができた。 また、施設のメインコンテンツであるガイドについて、増加する目的型の利用者の受け入れ体制強化のため、ガイド入門講座を実施し、新たなガイドの獲得に繋げたほか、ガイドレベルアップ講座・ガイドプロフェッショナル講座を継続して実施し、より質の高いガイドの提供を行うことで、利用者の満足度を高め、ガイドの利用率も約3割を維持できている。更に、夏至祭、縄文祭、館講座などに合わせてトピック展示を行い、来館者の満足度向上を図った。 国民スポーツ大会等の開催に合わせ、新規で無料開放期間を設定し、利用が減少する冬期間の集客及び新たな客層への利用を促進するための取組みを行った。

点検及び評価			
☐ 目標を上回る	☒ ほぼ目標どおり	☐ 目標をやや下回る	☐ 目標を大幅に下回る
評価理由： 世界文化遺産効果とツアーの減少に起因する入館者数の減少は、観光による活用を重点課題においている中では残念な結果ではあるが、当館の目標とするところは、一過性のファンではなく、リピーターやファミリー層等の獲得であり、その点は、従来のツアーに代表されるような「立ち寄り型」から「目的型」の客層数が確実に増加し、ガイドによる遺跡見学に参加し、好評を得るなど、目指す効果が上がってきている。また、ガイドに求められるスキルも高くなってきており、ガイドのスキルアップと人員確保は必須であり、そのための可能な対策を講ずることができた。 また、活用の根幹となる特別史跡の学術的な魅力を上げるため、研究発表や関係者の協力を得ながら研修会などを積極的に行った。 さらに、今年度から始めたキッズ向け体験は非常に効果的であるため、新規メニューの積極的な開発や縄文祭などのイベントを継続的に行い、多様な人々が集い、楽しみ、その中で遺跡の価値にも触れ、この遺跡があって良かったと思ってもらえるような事業展開を進めたい。			

教育委員会事務事業点検評価 <概要>

(根拠法令)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条

(実施要綱)

鹿角市教育委員会事務事業点検評価実施要綱（平成 26 年 1 月 6 日教育委員会訓令第 1 号）

(点検評価の対象)

令和 6 年度に教育委員会が実施した事務事業

(点検評価の実施日)

令和 7 年 6 月 26 日（木）

(点検評価委員) ※五十音順

安保 範子 委員

石井 勲 委員

岩舘 裕章 委員

田口 将 委員

(点検評価の結果)

・教育委員会事務局職員による内部評価

項 目	目標を上回る	ほぼ目標どおり	目標をやや下回る	目標を大幅に下回る	計	
I 学校教育の重点目標						
(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実	☐	☒	☐	☐		
(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実	☐	☒	☐	☐		
(3) 学校教育環境の充実に図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現	☐	☒	☐	☐		
II 生涯学習推進の重点目標						
(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成	☐	☒	☐	☐		
(2) 地域を担う人材の育成	☒	☐	☐	☐		
(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援	☐	☒	☐	☐		
(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援	☒	☐	☐	☐		
(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現	☐	☒	☐	☐		
III スポーツ推進の重点目標						
(1) 生涯スポーツの普及推進	☐	☒	☐	☐		
(2) スポーツによるまちづくりの推進	☐	☒	☐	☐		
(3) 指導体制の確立と指導者の育成	☐	☐	☒	☐		
(4) スポーツ施設の利用促進と整備	☐	☒	☐	☐		
IV 文化芸術振興の重点目標						
(1) 文化芸術活動の振興	☐	☒	☐	☐		
(2) 文化財の保存と活用	☐	☒	☐	☐		
(3) 世界遺産の活用推進	☐	☒	☐	☐		
合 計	2	12	1	0	15	

・点検評価委員による外部評価 . . . 「内部評価を承認」

点検評価委員よりいただいたご意見は次のとおりです。

点検評価の結果並びに委員の意見等を踏まえ、より一層効果的に成果が得られるよう創意工夫を図りながら事務事業を展開してまいります。

I 学校教育の重点目標

(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実

①児童生徒学力向上対策事業

【委員意見】	・全国での成績は良いようだが、県内での比較や鹿角市の位置などはどのようになっているか。現在の位置に満足せずにさらに高みを目指してほしい。
【事務局】	・標準学力調査自体が秋田県内全ての自治体で行われているものではないので、全国との比較で学力の定着度を見ている。指標には載っていないが、12月に秋田県の学力状況調査を実施しており、各校で県との比較、分析をして授業改善に生かしたり、全国学力テストの県平均との比較により、鹿角市の強みや弱点を洗い出しながら、各校において授業改善に取り組んでいるところである。現在のところ、格差はなく、県を上回ることもしばしばあり、遜色ない状況であるため安心してほしい。

(3) 学校教育環境の充実を図り、地域ともに取り組む、多様で質の高い教育の実現

⑤コミュニティ・スクールの推進

【委員意見】	・子どもたちへの成果など、現在の状況を知りたい。 地域との連携により、鹿角の教育を高めていくという強い信念を持って、様々な事業を進めてもらえれば、子どもたちの教育に良い影響を与えるのではないかと思う。
【事務局】	・学校運営協議会を年4回実施しており、そのうち1回は熟議という形で、地域や学校の課題について話し合っている。最初は県職員によるファシリテーター研修も行ったりしたが、現在は子どもたちも熟議に参加して、今置かれている自分たちの現状について、どうすれば良くなるのかなど、各協議会において独自のテーマに基づき、地域のために学校が何ができるか、また、学校のために地域が何ができるかを話し合っている。

II 生涯学習推進の重点目標

(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成

【委員意見】	・ワークショップの開催や、生涯学習サポートデーで高校生が小学生や年配の奨励員に指導したりしており、高齢者のみでなく、様々な年代に向けての生涯学習を行っており、交流という形で様々な事業が関わっていることで、「生涯にわたって、いつでも、どこでも、だれでも」ということが再認識できた。
--------	---

②-2 オンライン研修会等

【委員意見】	・会場での参加とオンラインでの参加のハイブリッド型で実施し、双方の多様な学びを提供できたことで、「目標どおり」と評価できるが、フォロワー数の課題について、拡大させていくために事前の広報・PRはどのようにしているのか。
【事務局】	・SNSについては、やはり定期的な発信をしていくことが一番重要だと思っている。また、講座を開催するたびに、生涯学習課でSNSをやっていることもアピールしながら、初めて見た方がお友達になってくれると、さらにそのお友達につながっていくことで増やしていけると思っている。講座開催の告知だけでなく、事業終了後にも開催内容を発信しているので、それを見て、次回の参加につながったり、友達にも紹介したりして増えていけばいいと考えている。

(2) 地域を担う人材の育成

①-1 「どこさデモ」出前講座の開催

【委員意見】	・市民の要望に、市職員が業務をしながら出前講座の対応をしていることに熱意を感じており、目標値もクリアしている。当初より多様な分野に拡大されているので、今後も市民のニーズをききながら取り組んでいただきたい。
--------	--

(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援

①-1 「二十歳のつどい」の開催

【委員意見】	・現在の形にして年数が経っているが、節目に遠くから来て参加する人に、これからの人生の糧になるような、もう少し価値のあるものを届けたいという思いがあり、高尚な部分と同窓会的な部分の2部制にするなど、一歩前進させたいと思う。また、目上の人に敬意を払うことを教えるチャンスでもあるので、市側から提案して高めていくことも大事だと思う。
【事務局】	・事務局でもそういった思いがあり、今年は二十歳の主張として、こんな鹿角を目指したいという意見発表を行った。一方で、市外に出ていった人が久しぶりに友達に会って、やっぱり鹿角はいいなと感じていただくきっかけにしたいとも思っている。今年度は、節目を感じられる厳かな要素も取り入れていけるように、実行委員と話しながら企画を詰めていきたい。

(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現

③日本語講座開設事業

【委員意見】	・日本語教室はそもそもの目的から離れているかも知れないが、実習生を住民と捉えないのは可哀想であり、ニーズがあるのであれば、事業として、ともに学びあえる形に見直しできればと思う。
【事務局】	・いずれ母国に帰ってしまう外国人の技能実習生についても、鹿角で暮らしている間の不便さの解消ということで事業を実施しているが、事業全体で見た場合、どちらかというと企業支援の側面が強いと思うので、次期後期計画の中で産業部の事業としてはどうか検討している段階である。

Ⅲ スポーツ推進の重点目標

(1) 生涯スポーツの普及推進

【委員意見】	・評価理由の「スポーツ環境の基盤強化に対する支援」の具体的な内容は考えているのか。
【事務局】	・中学校部活動の地域移行等で地域の指導者が必要となっているが、スポーツ少年団で登録している指導者が子どもの卒業と同時に終了している現状にある。一方で、登録したいという人も多いため、指導者の掘り起こしを行うとともに、クラブチームの設立等で指導員の育成や活動の場の提供を目指していきたい。

(2) スポーツによるまちづくりの推進

①スポーツ拠点づくり推進事業

【委員意見】	・スポーツ合宿奨励補助金については、制度が定着してきて利用者から非常に好評で大変ありがたいと思っている。
--------	--

⑤スキー駅伝選手育成強化対策事業

【委員意見】	・他自治体ではあまりない「スキーと駅伝のまち」に相応しい事業を実施していただいて競技する側には大変ありがたいと思っているが、より効率的な活用や反省点等利用者の声を次につなげていくことが大事だと思うので、定期的に会議を開催するべきだと思う。
【事務局】	・多少時期がずれてしまったがこの後開催予定であり、予算等について審議いただきたい。

【委員意見】	・評価理由の「ボランティア等による人材確保対策」について具体的にどのように考えているのか。 ・スキー大会はこれまでの実績を高く評価されて現在誘致できている状況であり、冬季の活性化につなげたいという思いがあるが、市としての考えはどうか。 ・全国規模の大会開催には、徐々に機運を高め、元気な高齢者等地元市民を巻き込んで協力してもらうような対策を考えてほしい。
【事務局】	・昨年度から、十和田八幡平駅伝競争全国大会での自主整理員のボランティアを募集しており、今年度も市内外から約20人の応募があった。 ・冬季に全国規模の大会を開催することで、ホテル・旅館業が通年で営業できているため、経済波及効果は大変大きいと感じており、継続していくことのメリットがあると考えている。 ・全国規模の大会等は競技役員会や実行委員会等必要なセクションごとに、種類、人数、募集の在り方等を検討して進めていきたい。

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

【委員意見】	・評価理由の「スポーツ協会の本市に適した体制の検討」の具体的な内容はどのようなものか。
【事務局】	・市内のスポーツ団体とどの程度距離を詰められるかが現在の課題だと思われるので、スポーツ協会と協議を重ね、連携していきたいと考える。

○その他

【委員意見】	・すべての項目について、点検評価した後の評価理由を新たに付け加えていただいて、非常に分かりやすくなったと思う。
--------	---

【委員意見】	・鹿角高校のスキー授業がなくなったということで、「スキーのまち」を推進している鹿角市としては、どのように考えているのか。
【事務局】	・統合前の花輪高校ではスキー授業をやっていた経緯があるので統合後もやっていただけのものと考えていたが、話し合いの中で十和田高校と小坂高校が実施しておらず、学校と保護者の方からの強い要望により実施しないという判断をしたそうである。再三お願いはしているが、いろいろな負担や高校のカリキュラムの関係もあり、実現は難しいのではないかと考えている。市教委としては、小中学校の方をしっかりと指導していきながら、高校には、何か支援できることはないかお話ししながら、再開の可能性について一緒に考えていくスタンスで進めていきたい。